

PS5230C ページプリンタ装置
設置資料
(第02版)

適用（目的）

本書は PS5230C ページプリンタ装置の設置作業を目的として規定するものである。

PS5230C : CA06744-B004

初版	2013年2月
第02版	2018年1月

お願い

- 本書は無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

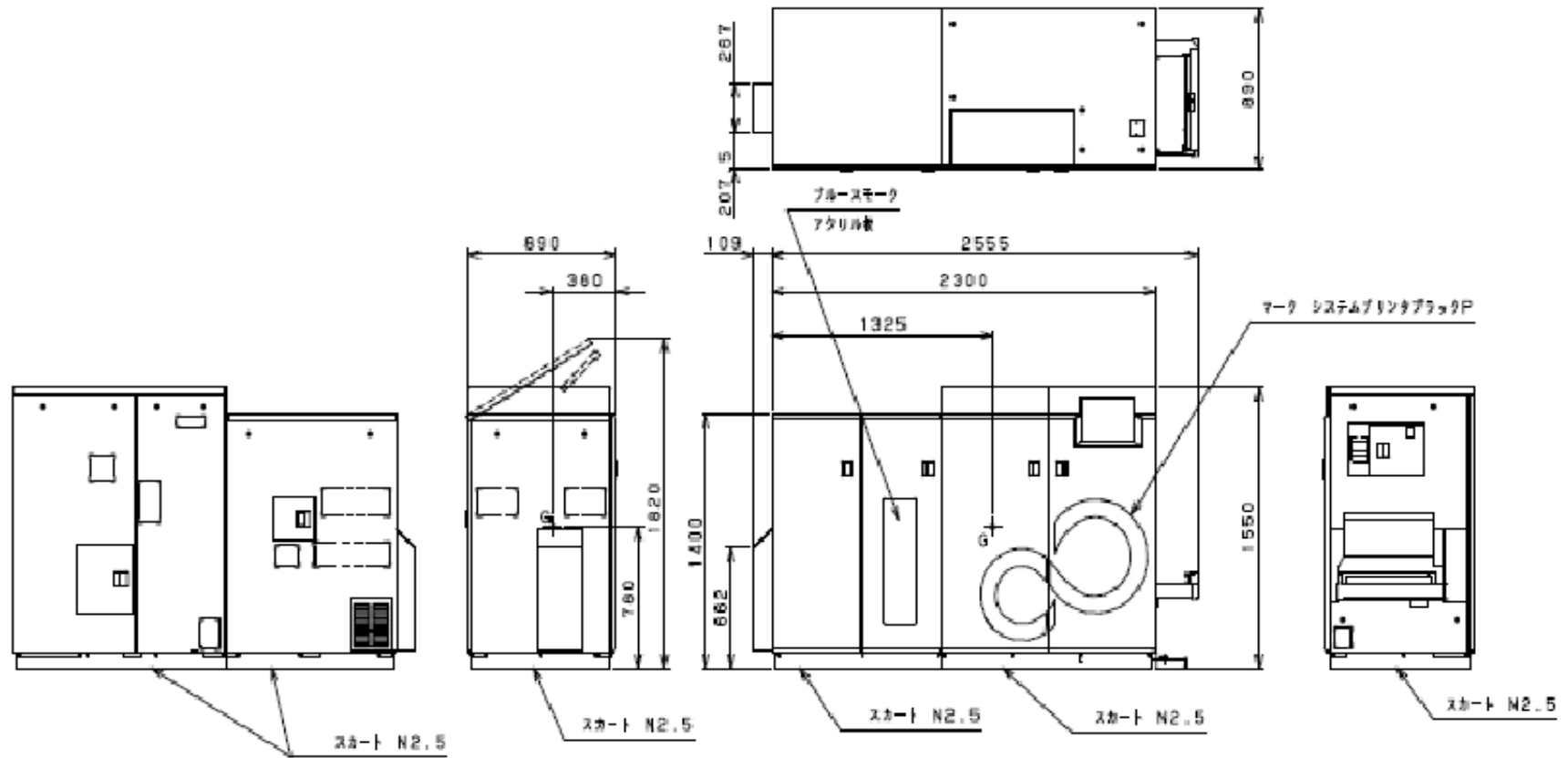
All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 2018

目次

1. 装置外観・重心	4
2. 設置緒元.....	5
3. 開口部位置	9
4. 排気部位置	10
5. 装置併設時の注意事項.....	11
6. 電源／LANケーブルの接続	12
7. 装置搬入時の分割寸法.....	13
8. 地震対策について.....	14
9. ロッカの連結方法.....	15
9-1. 本体側水準調整（原則として施設部門で行う作業）	15
9-2. スタッカ側接続および水準調整（原則として施設部門で行う作業） ..	17
9-3. ロッカ連結後のコネクタ、ホースなどの接続.....	19

1. 装置外観・重心

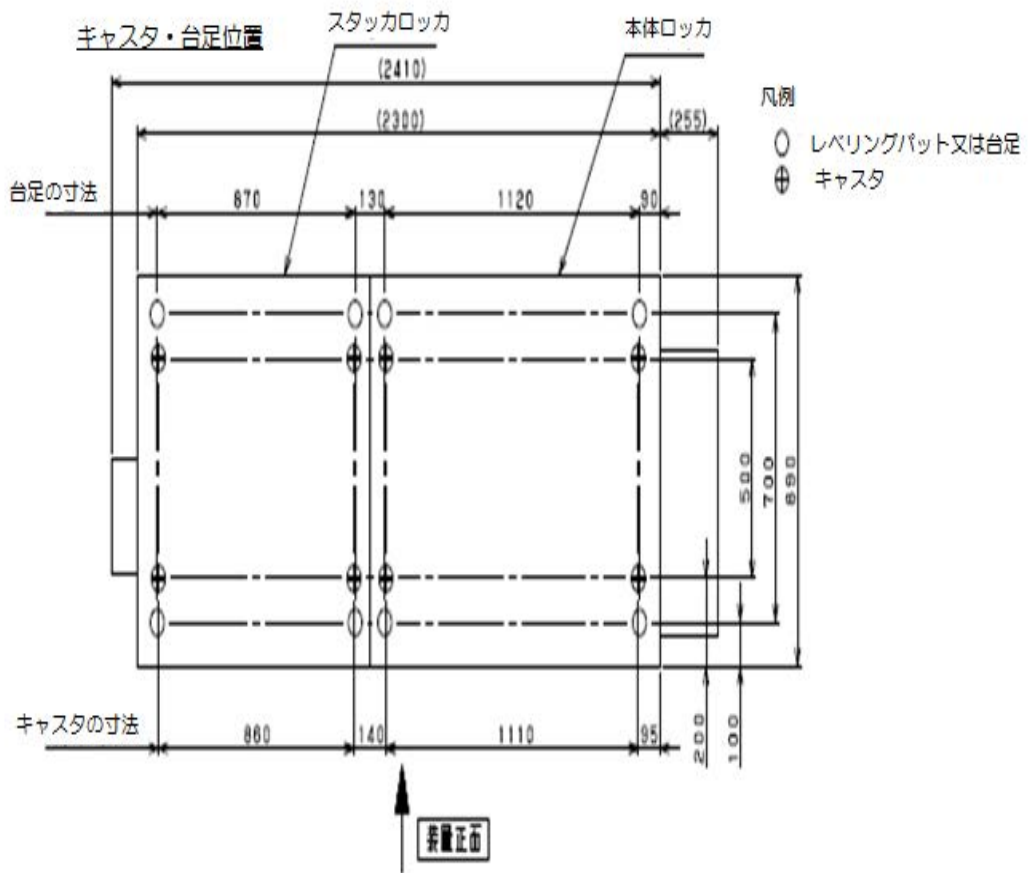
凡例 G：重心位置



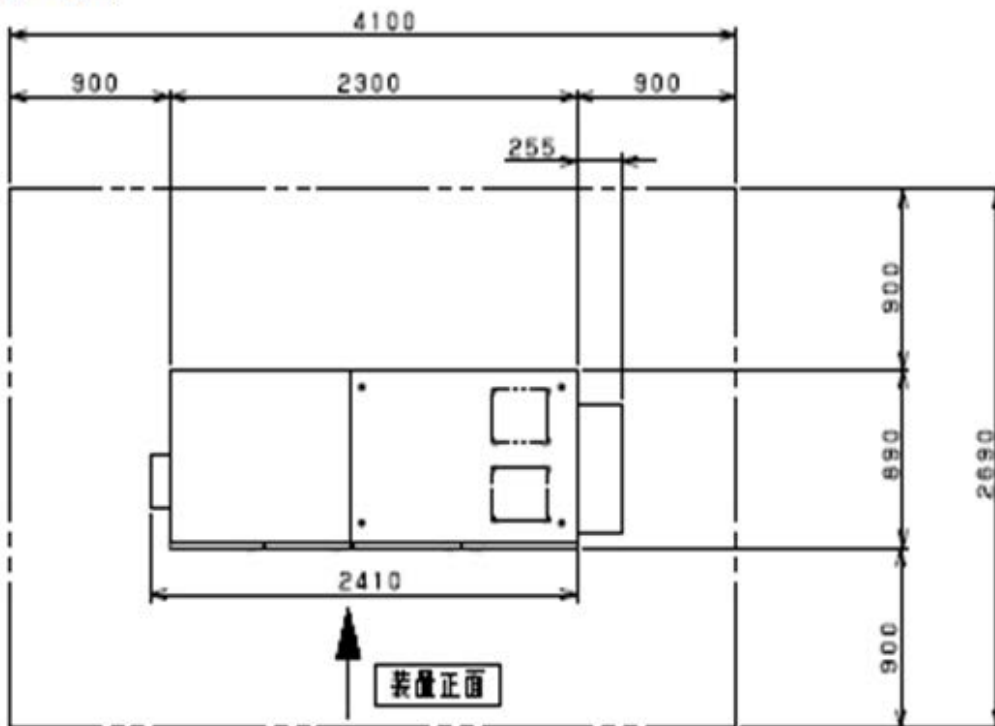
注 1) 色指定は JIS Z8721 (色の三属性による表示方法) による。
注 2) カバー色はすべて、システムコアブラックである。

2. 設置緒元

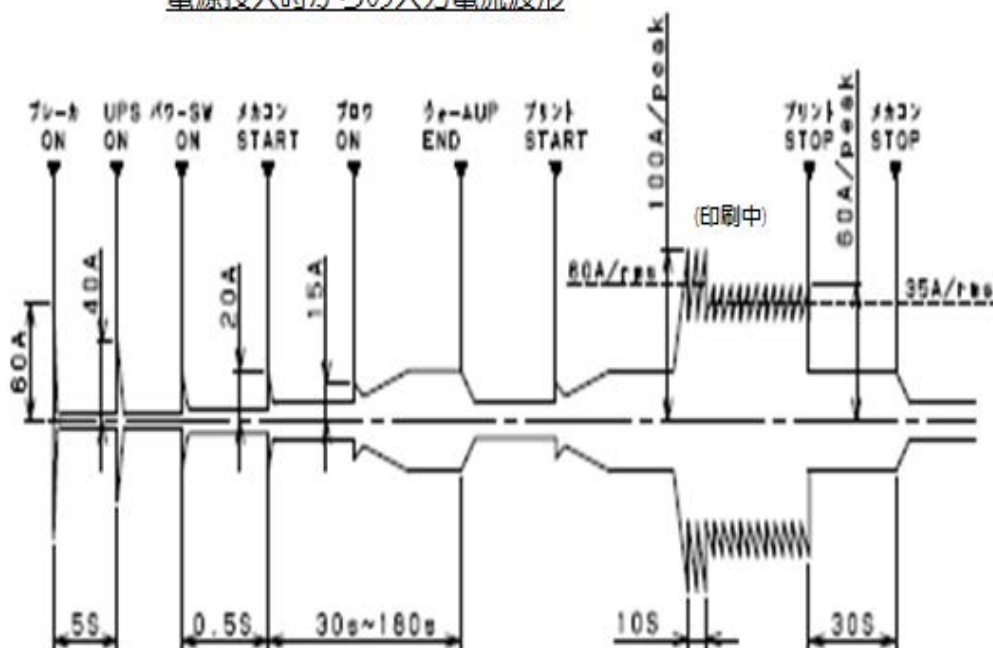
項目		値			備考
外形寸法 [mm]		幅	奥行	高さ	詳細は下図の「キャスト・台足位置」による
		2,410	890	1,550	
重量 [Kg]		約1,040			本体ロック側：約610 スタッカロック側：約430
サービスエリア [mm]		前	後	左	方向は装置正面を基準とする 詳細は下図の「保守エリア」による
		900	900	900	
入力電源	電圧	AC200V±10%			入力電源波形は下図による
	相数	3φ			
	周波数	50/60Hz -4~+2%			
所要電力量 [KVA]	制御中	11.0			CVCF 接続時は、27KVAの容量が必要である
	非制御中	0.9			
発熱量 [MJ/H]	制御中	36			8,600 [kcal/H]
	非制御中	3.0			700 [kcal/H]
漏洩電流 [mA]		15 以下			
温・湿度許容範囲	装置状態	稼働中		休止中	
	温度 [°C]	15~32		0~35	
	湿度 [%RH]	40~70		20~80	
	最高湿球温度	26°C		26°C	
許容塵埃 [mg/m ³]		0.168 以下			ステアリン酸基準
許容振動 [m/s ²]		1.96 以下			(0.2G 以下)
電源入力端子		M6ボルト端子1系統			電源工事が必要
騒音 [dB/(A)]	制御中	70 (半無響室)			JIS Z8731 A 特性による
	非制御中	55 (半無響室)			
排気量 [m ³ /min]		約44			
NFB 容量 [AT]		60			
地震対策方法 (方式)		250 m/s ² 以下	400 m/s ² 以下	400 m/s ² を超える	B1,B2 方式の時は台足を DA4 に変更要
		A1		B1,B2	



保守エリア



電源投入時からの入力電流波形



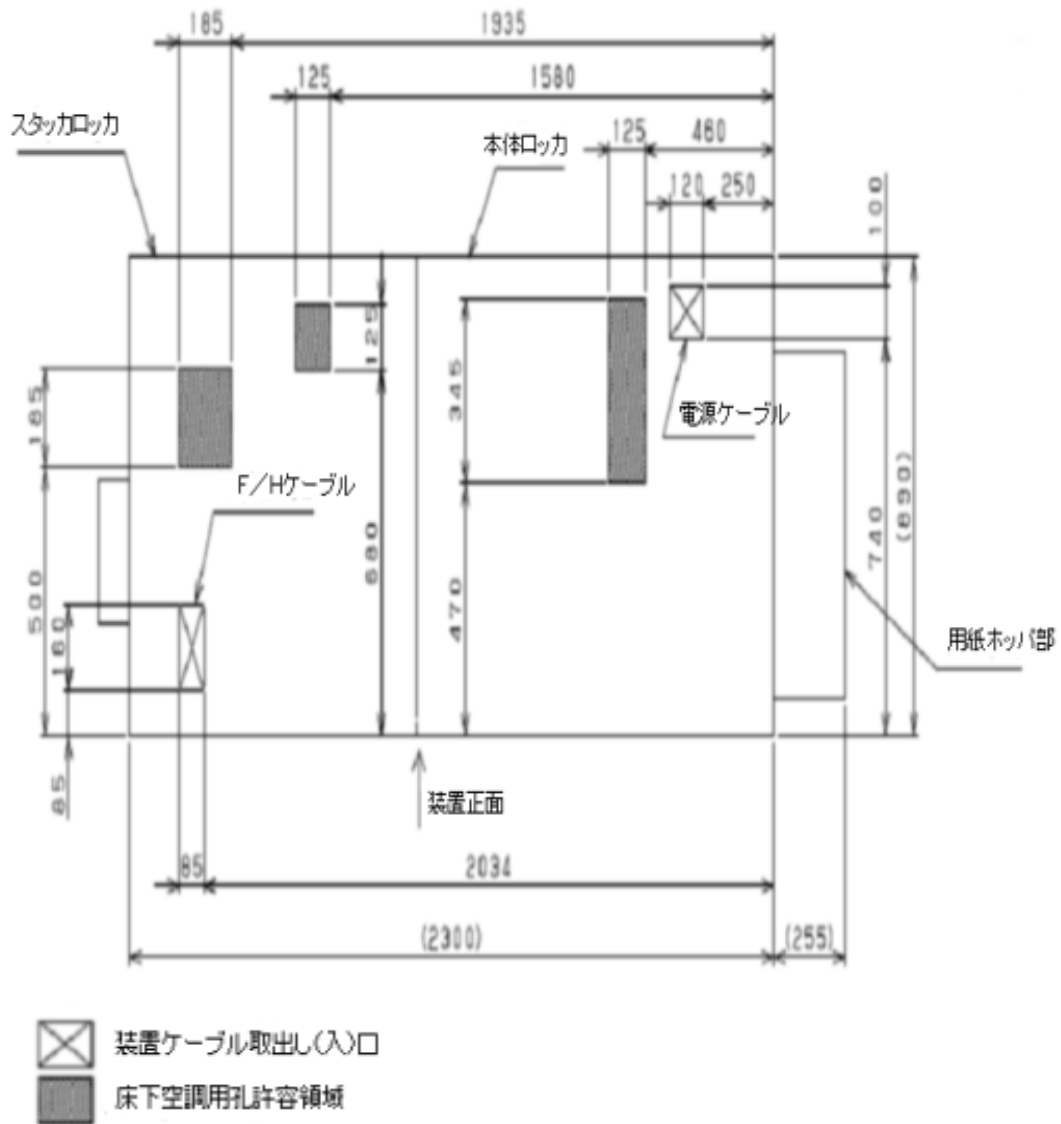
注) プリントSTOP後30秒以内にプリントSTART状態となれば印刷中の波形となる。

注記

1. 装置水平度2～3/1000以内。
2. 装置背面側に塵埃に厳しい装置の設置を避け、装置室内の空気設備には塵埃濾過機能を持っていること。
また、清掃を行う場合はエアガン等を使用した塵埃の吹き飛ばしは行わず、掃除機で行ってください。
3. 設置場所の照度は装置上面で500lux以下。
4. 装置使用NFB：EW100EAG-3P050B（富士電機）。
5. 本装置設置環境条件としてアンモニアガス、石油系溶剤のガス発生する場所への設置は避ける。
尚、やむを得ず湿式現像液使用の印刷装置と併設される場合には上記ガスの濃度が200ppm以下であること。
注： 湿式プリンタ TORAY8572など
湿式プロッタ ペンソン9336、パーサテックECP25/45など
参考：測定器としてコスモス電機株式会社製携帯用 超高感度ガス検知器 XP-306がある
6. 設置場所での加湿器を使用する場合は、蒸気式の加湿器を使用してください。
超音波式の加湿器を使用すると白粉が発生し印字障害となりますので、絶対に使用しないでください。
7. サービスエリアは、装置の保守サービスを実施するのに必要なスペースです。
必ず確保してください。

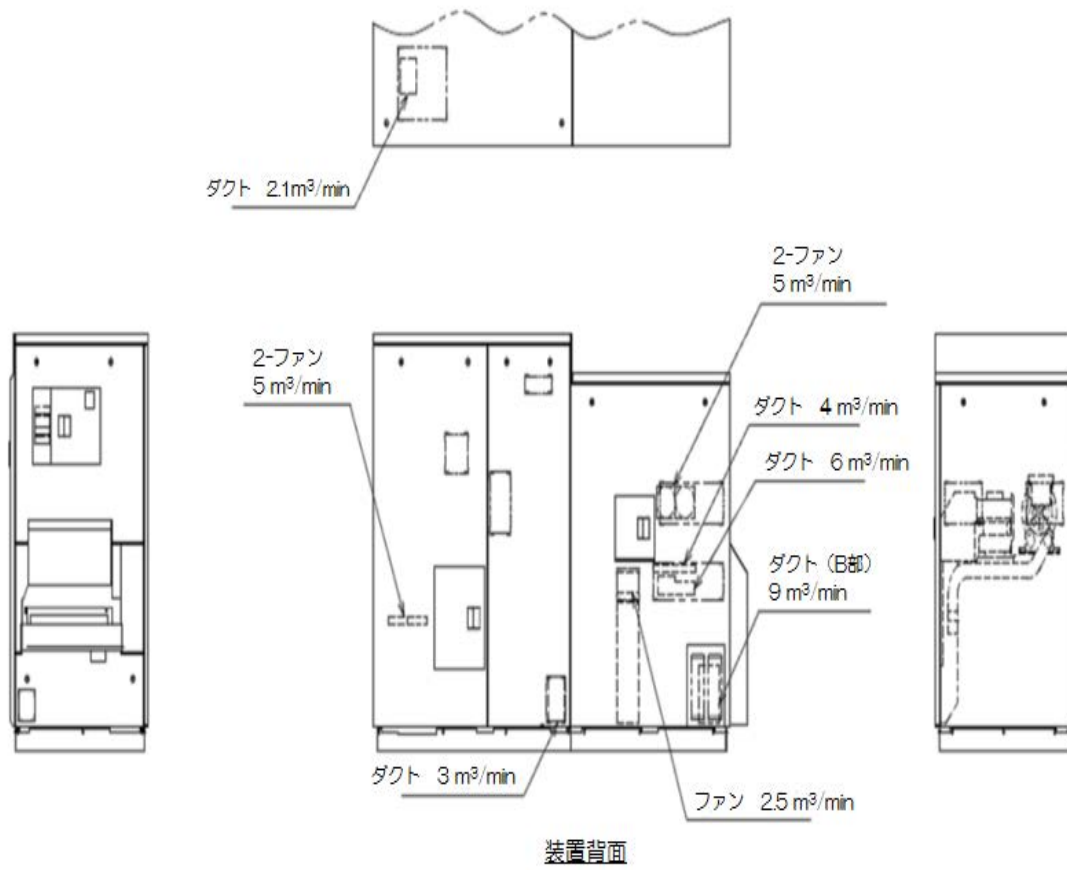
8. 装置背面には、装置稼働中 約 8,600[kcal/H]の排熱があります。
排気ファン・フロアの排気の障害になるものを置かないでください。
稼働中でも周囲環境許容範囲を維持できるよう、装置背面の空間、空調設備
(排熱ダクトなど)を設ける必要があります。
9. バースターの除電ブラシなどの導電性異物を使用している、または発生させる恐れが
ある機器や装置は、本装置との間に仕切りを設けるなどの対応を実施してください。
導電性異物が本装置内に混入すると誤動作や壊れる恐れがあります。

3. 開口部位置



注1. 床下空調なき場合は前面のみスカートを取付けのこと。

4. 排気部位置

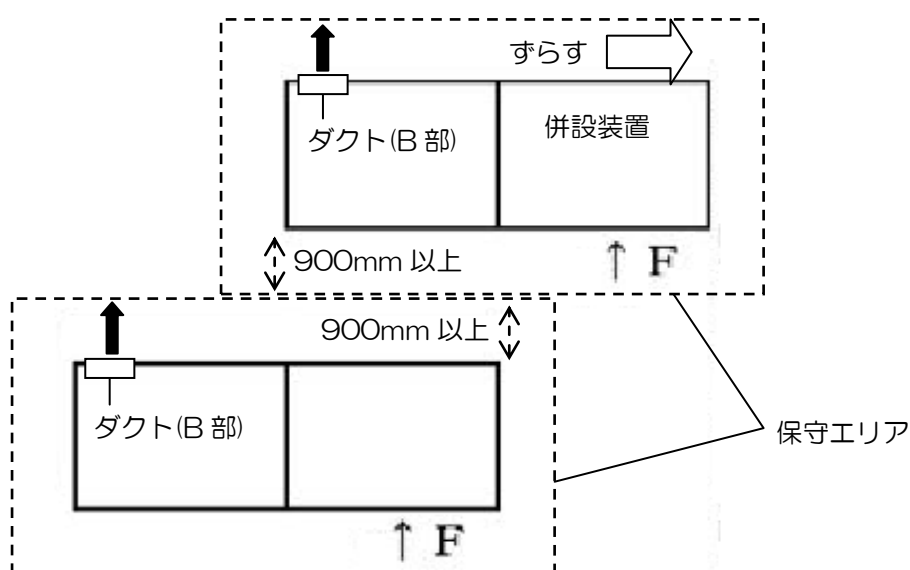


5. 装置併設時の注意事項

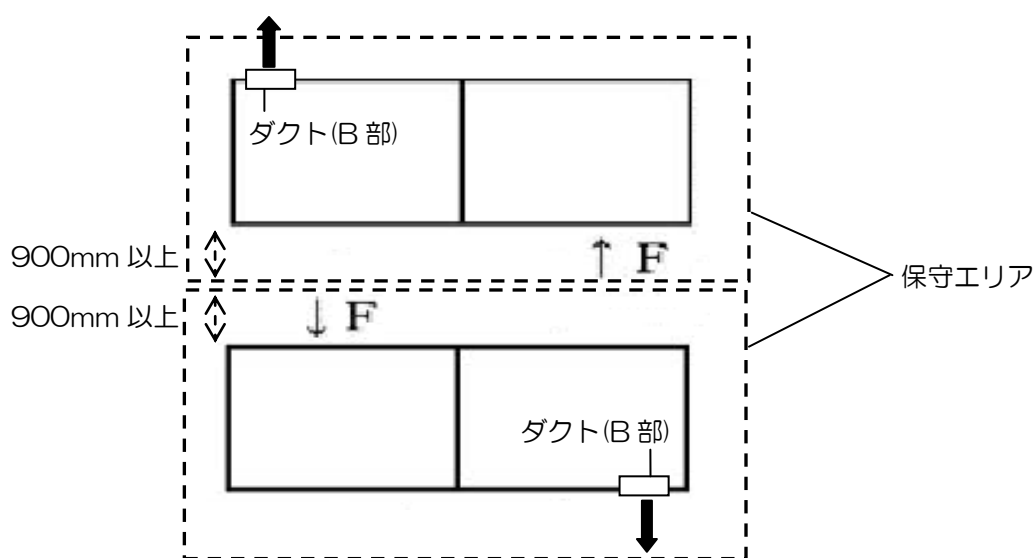
ダクト（B部）（4. 排気部位置 参照）からの排気は流量・流速ともに高く、併設したプリンタ装置の用紙交換時に用紙バツキ等操作上の障害が生じたり、排熱が併設装置に影響を与える恐れがあるため、保守エリアのスペースを必ず確保してください。また、以下の例に示すよう、装置背面からの排気がかからないように設置してください。

（↑F、 F↓： 装置正面）

- 後ろの装置をずらし、ダクト（B部）からの排気を避ける。（装置併設例1）
- 互いの装置背面部を外向きにする。（装置併設例2）
（注1）装置背面を内向きにする設置は行わないでください。

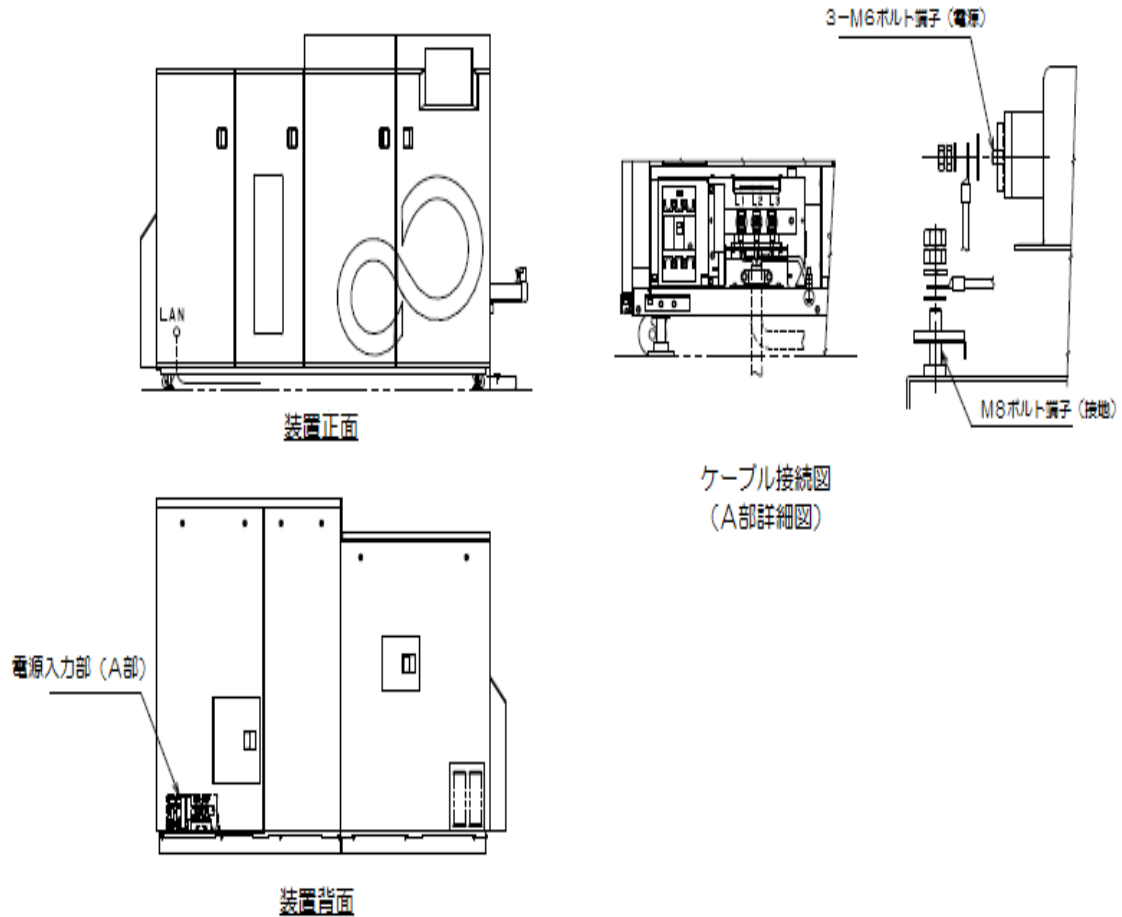



装置併設例1



装置併設例2

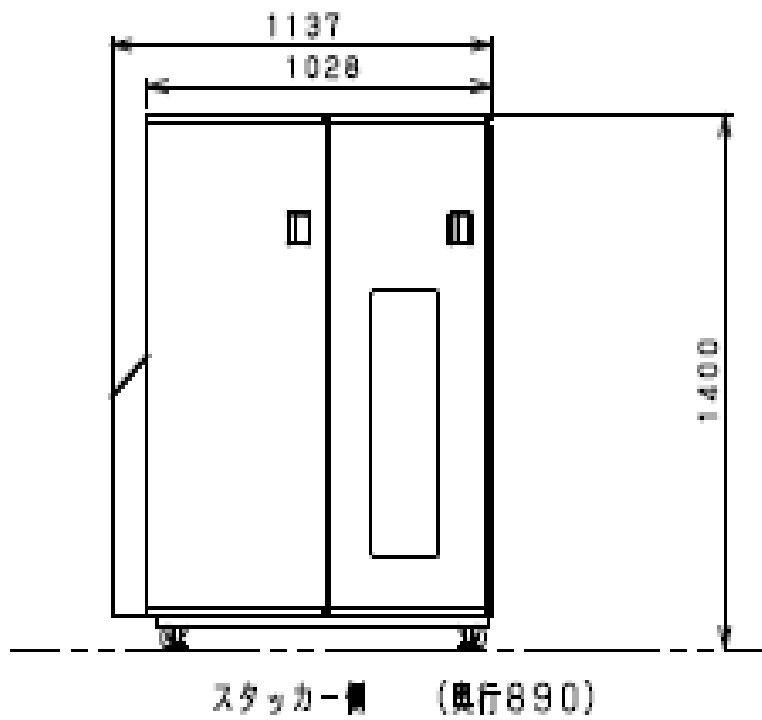
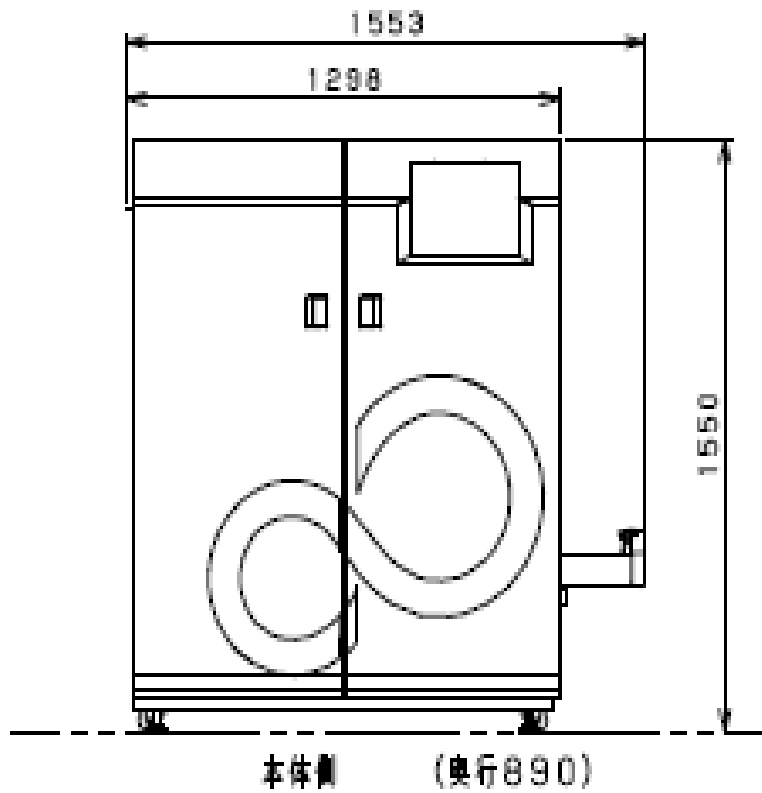
6. 電源／LANケーブルの接続



名称	表示	仕様 (装置側)	仕様 (ケーブル側)	備考
電源端子	L 1, L 2, L 3	M6ボルト端子 (電源)	内径φ6, 4 外形φ13, 5以下の圧着端子	(注1)
		M8ボルト端子 (接地)	内径φ8, 8 外形φ15, 0以下の圧着端子	
LAN接続	LAN	O63L-2830-0010	ユーザ指定のLANケーブル	

(注1) 接続には電源工事の手配が必要です。

7. 装置搬入時の分割寸法



単位：mm

8. 地震対策について

地震対策は、機器の転倒と破壊の防止、オペレータの安全、およびシステムの早期復旧を目的としています。富士通では、地震による機器の被害を防ぐために、以下の2つの地震対策工法を提供しています。

- 免震工法 : 装置の台足に免震台足（セーフット）を取り付けることにより、装置の転倒を防止する工法。
- 固定工法 : 装置を固定することにより、転倒を防止する工法

以下の要因を検討し、適切な工法を選んでください。

- 設置場所での床振動の大きさ
- フリーアクセス床の有無
- 装置の構造

地震対策工法の選定、施行にあたっては、富士通の工事部門へご相談ください。

<免震工法の適用について>

本装置の免震工法は以下のとおりです。

- ・セーフットの種類及び装置1台あたりの使用数
CA82001-3002 8個 ※RoHS対応品
- ・キャストの取り外しは不要
- ・スカートは装置に添付のものを使用
(改造スカートは使用しない)

9. ロッカの連結方法

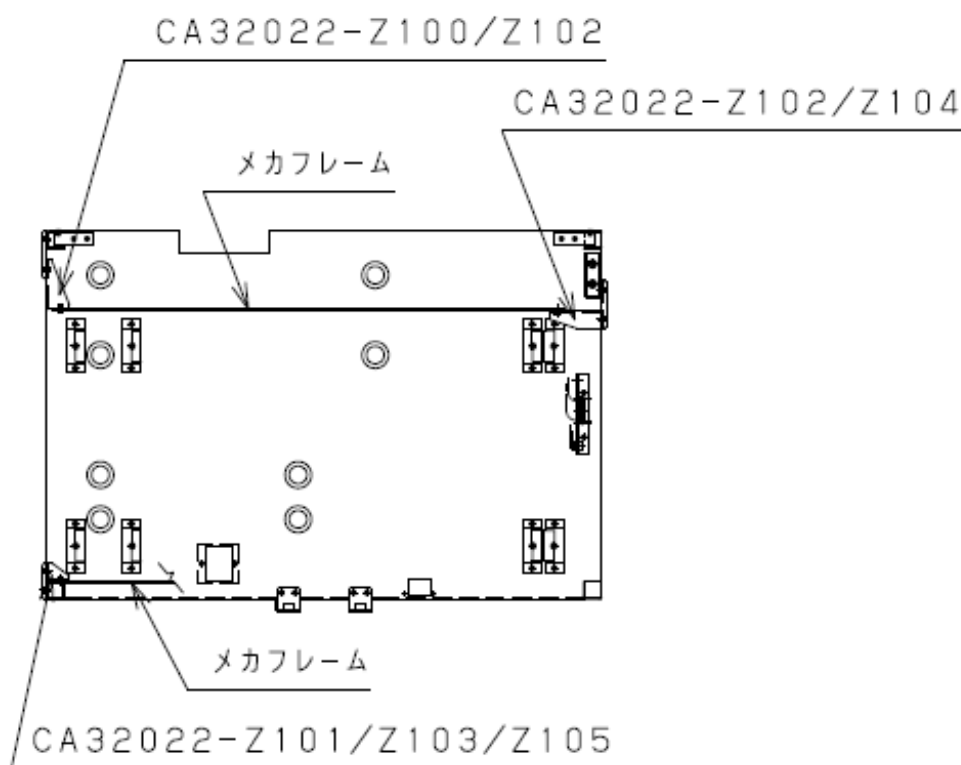
以下の手順で正しく設置してください。

9-1. 本体側水準調整（原則として施設部門で行う作業）

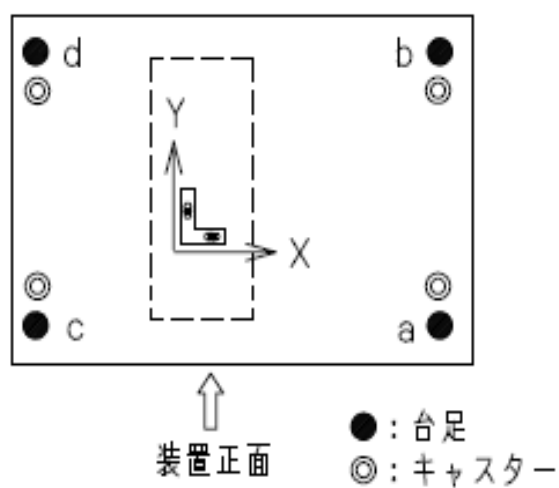
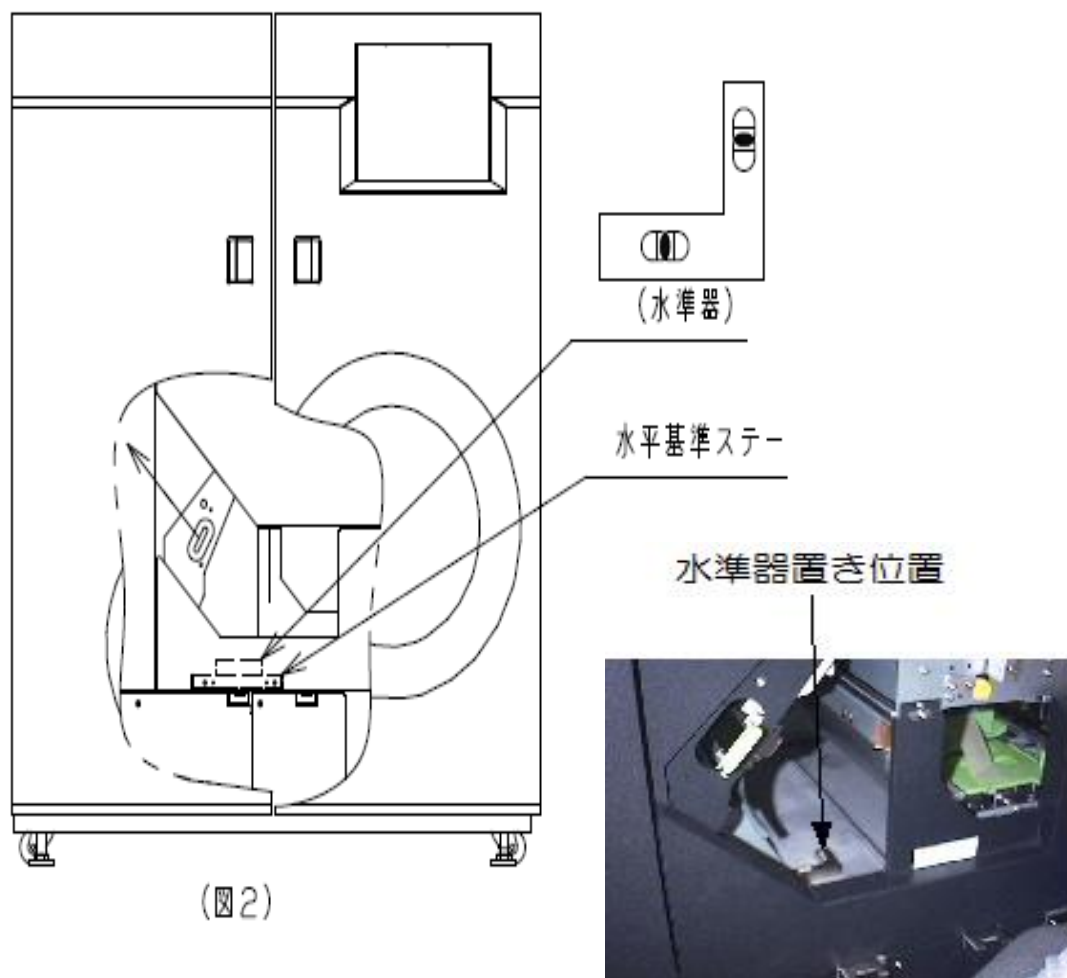
※ 原則として施設部門で行う作業です。

(注) 装置本体側の水平調整/足上げを実施してから連結用の輸送金具を取り外すこと。装置の転写ギャップが狂う可能性があります。

- (1) 装置本体側を設置場所に置く。
- (2) オートロードカバーを開き、本体側ロッカの機構部基準位置（図2）に水準器を置き、台足 a～d を回しながら水平調整を行う。（図3）
- (3) このとき水準器でX、Y両方向とも 2/1000mm以内に調整する。（水準器の目盛りにて中央位置）
- (4) キャスター4個がフリーになる高さに調整する。（必要以上に高く上げないこと）
- (5) 輸送金具（図1）を取り外す。

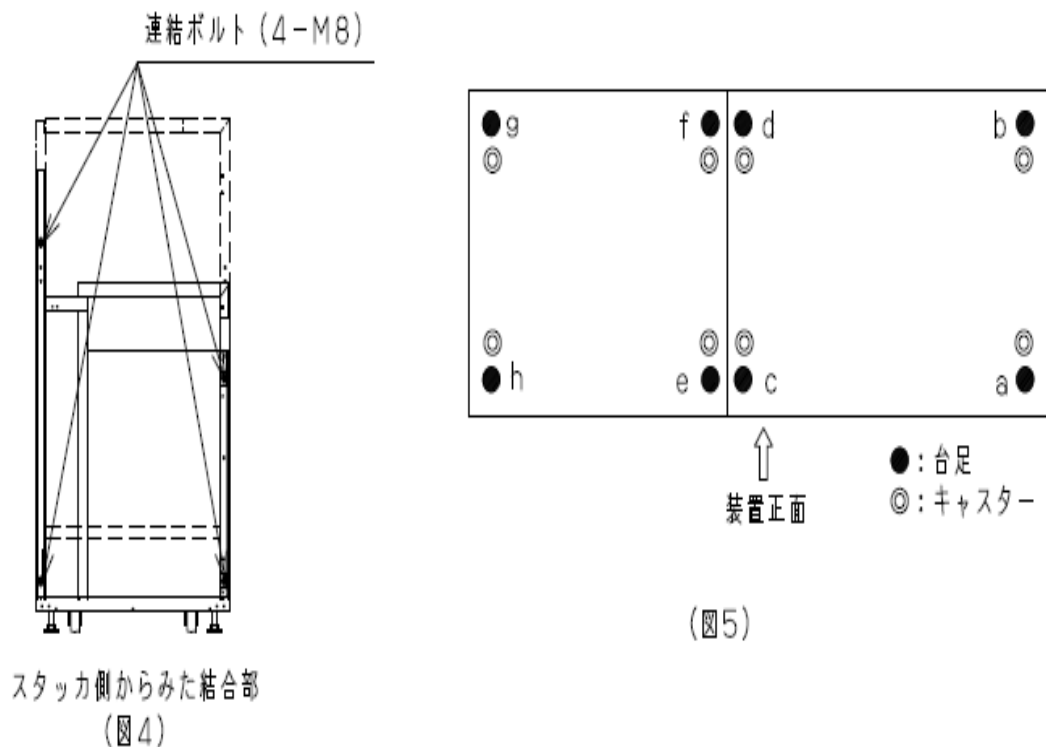


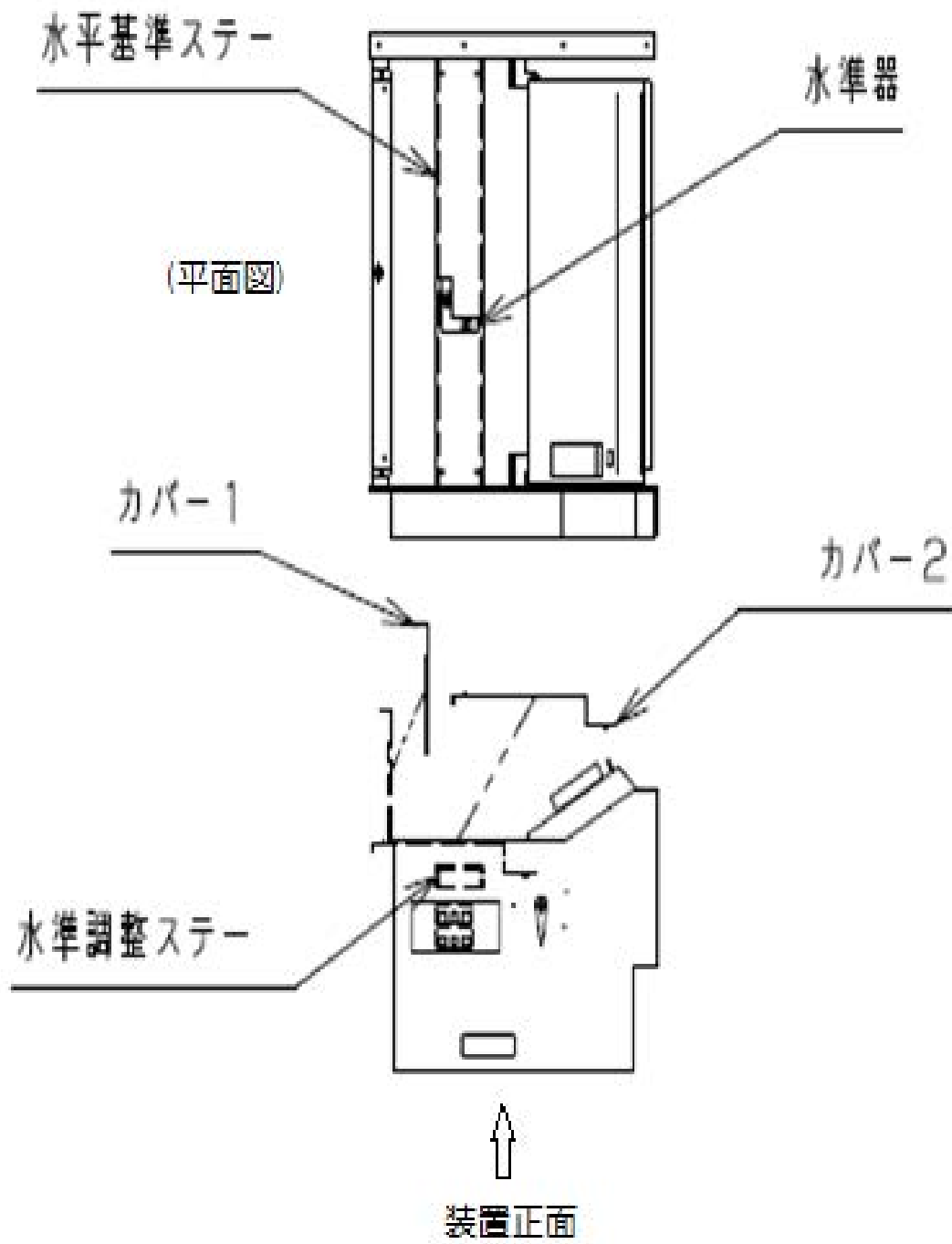
(図1)



9-2. スタッカ側接続および水準調整（原則として施設部門で行う作業）

- (1) 既に調整の終わった本体側ロックにスタッカ側のロックを突き当てる。
このとき、束線を挟まないよう注意すること。
- (2) 連結ボルト（8mmボルト 4本）をスタッカ側より仮締めする。（図4）
ボルト穴が合わないときは、台足 e、f にて調整する。（図5）
- (3) はじめにカバー1（側面）を外す。次にカバー2を外す際はスタッカダウン
させてスタッカ正面パネルを外した後にカバー2のネジを外す。
- (4) スタッカ側水平基準位置（図6）に水準器を置き、台足 e～h を回し
ながら、水平調整を行う。
- (5) このとき、水準器でX、Y両方向とも2/1000mm以内に調整し、
さらに両方のロックフレームの前面及び下面が面一となるように高さを
合わせる。
（9-1項本体水準調整 参照）
- (6) 全てのキャスターが床から浮いていることを確認する。
- (7) 連結ボルト（8mmボルト 4本）をそれぞれ増し締めし固定する。

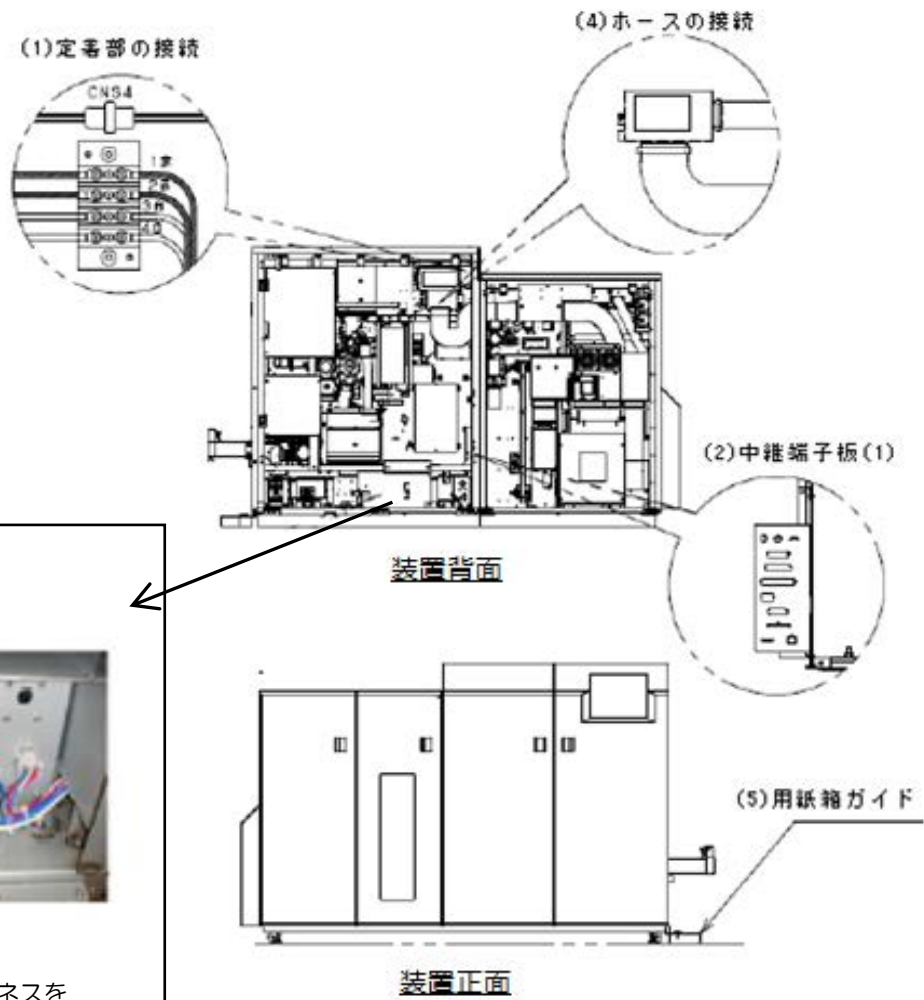




(図6)

9-3. ロッカ連結後のコネクタ、ホースなどの接続

- (1) 定着部の接続
高圧ケーブル、コネクタを接続する。
- (2) 中継端子板部の接続
中継端子板の近傍に置いてあるハーネスをコネクタ番号を確認しながら接続する。
- (3) LVPS部の接続
ロッカ底面の連結部近傍に置いてあるACハーネスをLVPSのACOUT 2に接続し、3本まとめてクランプする。
- (4) ホース接続部
脱煙ホース及び冷却ホースを差し込みホースバンドで固定する。
- (5) 用紙ホッパ部
用紙箱ガイドを取り付ける。
- (6) ロッカ下回り
スカートを取り付ける。



(3) LVPS部の接続

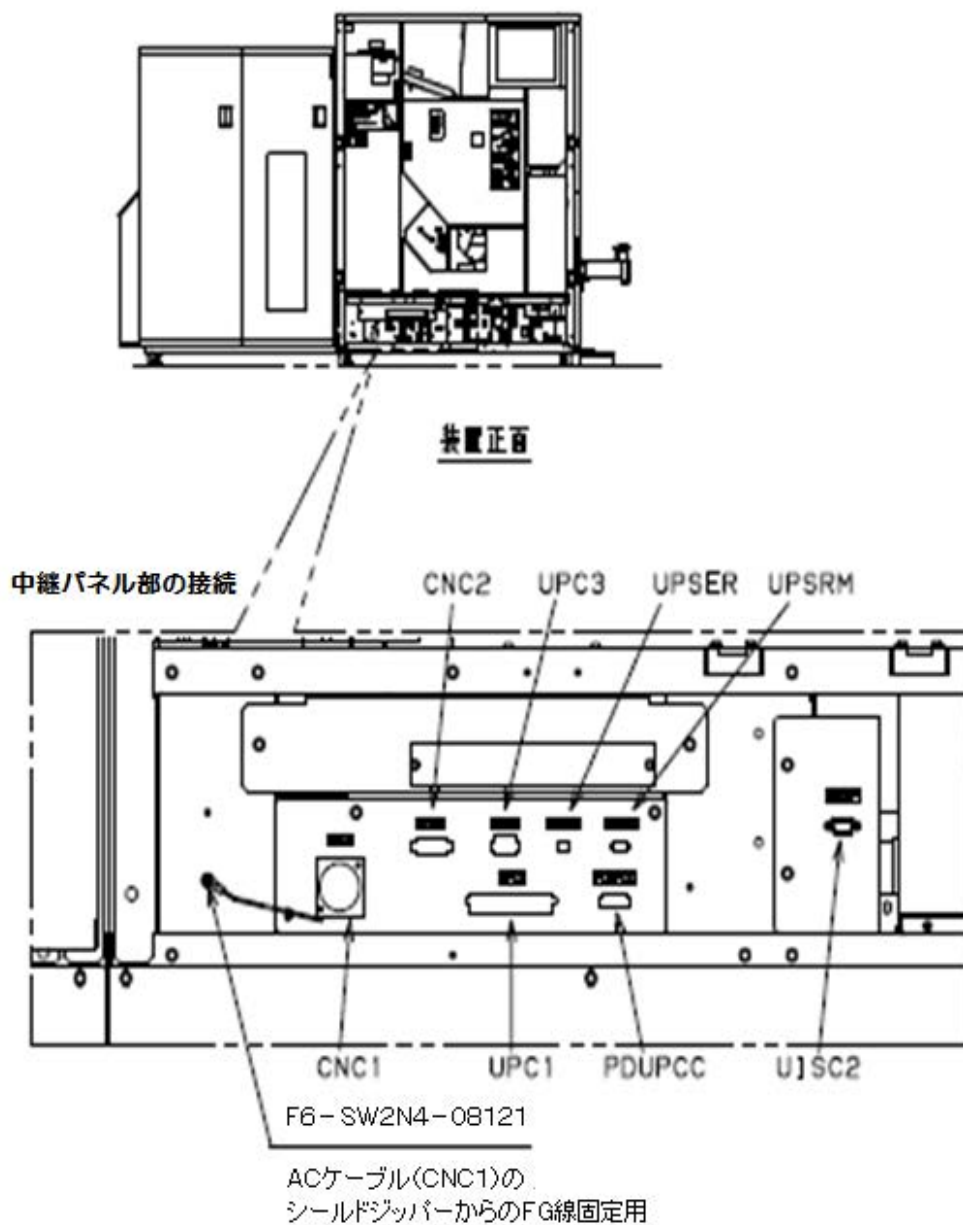
LVPSのACOUT2のL1に赤、
L2に白、L3に青を接続する。



3本のACハーネスを
まとめてクランプする。

(7) 中継パネル部のコネクタ番号を確認し、差し込む。

- ※ ACケーブル (CNC1) はプラグ押し込み後、右へ回してロックすること。
- ※ ACケーブル (CNC1) のシールドジッパのFG線をビス止めすること。



FUJITSU